

<p>第 64 号 平成 26 年 3 月 HPに 創刊号から 連載中</p>	<p style="text-align: center;"><b>もう一つの道</b></p> <p>情報は、うのみにせず、注意 深く徐々に試してください。</p>	<p>山田整骨院 熊本市中央区出水 4-25-1 <a href="http://yamadasu.com/">http://yamadasu.com/</a> 熊本交通事故, 山田整骨院 <input type="button" value="検索"/> <a href="http://www//jiko-kumamoto.net/">http://www//jiko-kumamoto.net/</a></p>
---	---	--

**これを 15 分間で読みこなせば脳溢血は起こらない！！**

## 扁鵲伝について（中国古代神医）

この物語は一切の病を解決する

西勝造先生講演

月刊西医学 昭和 32 年 7 月号

### 扁鵲伝（へんじゃくでん）の素読

さて『扁鵲伝』ですが、これは漢文のほうでは千六百五十一字からなっております。これを和文にしたものを十五分でお読みになれる人には脳溢血はないのであります。それはこれを十五分間で読みこなすということは、よく舌が回るということです。脳溢血を起こすような人は、舌がよく回らないのです。…略

### 扁鵲伝（史記・巻百五・列伝第四百五）

…長文で且つ、ふりがながふってあり、難しい漢字も多いので、転載不可能のため省略します。原文をコピーして、ご希望の方が読むことが出来るようにします…

### 扁鵲伝の注釈は何冊もある

この扁鵲伝の訳は、ずいぶん昔からありますが、どうも訳がまちまちになっております。それは漢学者には医学のことが判らない、また医学者には漢学のことが判らないということから起こっているのです。そういうわけで私の訳は、今までの漢文の説明とは多少異なっているところがあるはずでございます。略、扁鵲伝を説明した文献の二、三を挙げますと、中荃先生の扁鵲伝正解、これは全部漢文で説明してございますが、この人は医学のことが判っていないだけにやはり解釈が間違っております。それから図南先生の扁鵲倉公伝割解、これもずいぶん出典を明らかに説明してありますが、やはり病氣のことはほんとうに判っていないところがございます。それから医心方を編纂した丹波康頼という人が注釈したのもございます。中国で注釈されたものとしては史記の列伝の一部でございます。

### 脳溢血を起こした時

それでは一応扁鵲伝について、私は私なりの注釈をしてみましょう。扁鵲伝は今から四千年前に現れた中国の偉大なる神医扁鵲が、次から次へと病気を治していくことを書いたものです。ここでは脳溢血については三つの例が出ております。…略、一口で申しますと、たとい脳溢血を起こしても何もする必要はない、それはほっておけばいいというのです。今の医学は、脳溢血を起こしたとなると、あわてふためいていろいろなことをしようとする、それがかえって病を重くし且つ死んでしまう基となるというのであります。

## 上池の水とは何か

…略、長桑君、略、扁鵲を呼んで、略、ひそかに語って曰く、私は一つの薬を持っている。私はもう年を取ったから、これをあなたに差し上げようと思う。略、漢方の下剤でございます。これを飲むに上池の水をもってする。この上池の水とは、略、たとえば木の葉っぱに溜まった水であるとか、大木のうつろに溜まった水であるとか、略、集めて分析いたしましたところ、その中に 18%から多いのになると 37%のマグネシウムが含有されておりました。略、マグネシウムが入っている水を飲むのですから通じのつくのは当たり前です。「これを飲むに上池の水を持ってせば、三十日にしてまさに物を知るべし」…略、そこで扁鵲はその薬を飲むこと三十日、垣の一方の人を視見す。…略、視見するというのは、見ようと思って、さらに心眼で見るという意味でございます。便通がついたものですから、そういうことまで見えるようになった。これをもって病を見るにことごとく五臓の癥結を見る。癥結というのは糞便の溜まっているとか内臓がととのっていないことです。略、その人の顔を一見ただけで五臓の癥結が分かる。例えばこめかみのところに静脈が膨れておれば、もうすでに腸に糞便が溜まっていることである。そういう人は血圧が高いか、あるいは脳溢血で近々倒れるという徴候を示しているのです。

## 扁鵲號の国の官門の下に至る

その後、扁鵲は號の国を通ったところ、ちょうど號の太子が死んだ。…略、太子は便通がなくて外に爆発して中に害をなした。略、半身不随になって人事不省になった、略、聞くところによると太子は不幸にして死なれたそうですが、臣がそれを生かしてみせましょう。それを聞いた中庶子は、先生、冗談も休み休みに言って下さい。何をもって太子が生きると言えるのか、略、早くいえば宿便を出すことです。略、太子を見てごらん下さい。耳やら鼻が動いている。略、鼠蹊部のところに手をやったならば脈を打っているに違いない。略、まさにその通りであった、略、扁鵲の言葉を、略、王様に申し上げた。略、先生があれば倅は生き、先生のお出でがなければ、倅は永久に死んでしまっただけで起き上がることはないであろう。略、扁鵲曰く、太子の病はシケツである。つまり半身不随である。略、静かにして死んでいるようであるけれども、太子はまだ決して死んでいるのではない。略、しばらくして太子が蘇った。略、二十日間にして元の体に復した。ゆえに天下ことごとく扁鵲をもって死人を生かしたと言った。扁鵲が云うには、略、死人を生かしたのではない 当然生くべきものを生かしたに過ぎないのである。略。

## あ と が き

西勝造先生は 10 代の頃著名医師により病の不治と死を宣告され、それ以来一般の医療と訣別し、ご自分で古今東西の医学を原典から研究し、又、数学、物理、化学の学識を元に、革命医学、西医学を確立しました。この扁鵲伝は四千年前の文献ですが、内容は偉大で今の医学界を凌駕するものがあると西先生は断言しています。月刊西医学昭和 29 年 9 月号で、扁鵲伝の別な講演が載っています。この解説を読むと 現代医学が説明できないことがほとんど分かります、つまり病気で悩まなくてよくなります。原典の和文をご希望の方にはコピーが読めるように致しますのでお申し込みください。簡単に閲覧出来る方法のアイデアをお持ちの方はご連絡お願い申し上げます。